

【活動の流れ】あいさつ→自分たちの紹介と訪問のねらい→ソーラン披露→昔の遊び、手品→遠野物語語り部→合唱「ふるさと」「花は咲く」仮設団地の方々と一緒に



仮設団地に向かうバスの中で、僕は不安で緊張していました。到着後、団地の方々に明るい笑顔で出迎えていただきました。その笑顔で一気に緊張がほぐれました。ソーラン、手品、語り部の時もずっと明るい笑顔で見守っていただきました。失敗の時も「大丈夫だよ」と声をかけてくださり、とても気軽に交流できました。「花は咲く」の合唱のときは一緒に歌ったり、涙を流しながら聞いたりしていただきました。「本当にここに来て良かった」と思いました。私たちの帰りのバスが見えなくなるまで手を振っていただきました。そのとき、「また来たい」という思いがこみ上げてきました。

【 実践後の感想（全体発表会から）－「山田町の訪問を終えて」－ 】

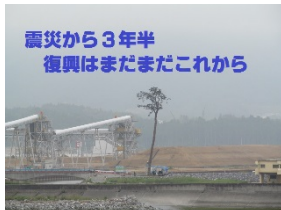
仮設団地の方々と交流することができたことが一番印象に残りました。私たちができることはほんのわずかですが、それでもあんなにも私たちの取り組みを温かく見守り、笑顔いっぱい喜んでくれたことがとてもうれしかったです。

合唱では私たちと一緒に声を合わせ、歌ってくださったこと、様々な思いがよみがえり、涙を流しながら聞いていただいたこと、「また来てね」の言葉に私たちの思いが少しでも伝わったのかなと思いました。私たちにとっても忘れられない大切な思い出となりました。

次に来年度の課題ですが、3年たってもなかなか復興と生活再建が進まない中、一番求められていることは被災地の方々とのおふれあい活動を続けていくことだと思いました。少しでも被災地の方々の心の支えになれるよう活動内容を考えて頑張っていきたいと思えます。私たちは今回の取り組みや仮設団地の方々と交流会からたくさんのことを学びました。「困難を乗り越え支え合っていくことの大切さ」「災害の恐ろしさ」「当たり前のことにも感謝をもって生活していくこと」「家族を大事にすること」「災害に対する事前の話し合いを様々な場面で考えておくこと」などです。来年は遠野の地から復興支援の活動をさらに工夫し、力強く発信していきたいと思えます。

3学年の実践

- 1 陸前高田市・大船渡市への訪問
- 2 遠野市内での農業ボランティア
- 3 大槌町の仮設住宅訪問
- 3つの学習活動実施



【 大槌町訪問を終えて 】

今までは被災者の方とおふれあったりする機会はあまりなくて自分でできるボランティアなどもよく分からなくて困っていたけど、今回仮設の方々とおふれあうことができ本当に良かったです。野菜を届けて、その思いが伝わり、喜んでくれたことが本当に嬉しかったです。またボランティアしたいと思えました。

【 保護者の感想（復興教育全体発表会を見て） 】

全体発表会を聞いて、子供達がどんな活動をしてきたのかが分かりました。また被災地の方々に中学生の思いが伝わり、喜んでいただいたことが何よりでした。特に合唱を歌ったことで被災地の方々の心に響いていることが感じられて良かったです。